

## 浜の活力再生プラン

(第2期)

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	佐伯地区地域水産業再生委員会 上浦地区作業部会
代表者名	部会長 福泉 健二 (大分県漁業協同組合上浦地区漁業運営委員長)

再生委員会の構成員	大分県漁業協同組合、大分県南部漁業青年協議会、佐伯市、大分県
オブザーバー	

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	上浦地区 養殖(3)、一本釣り(37)、刺網(20)、小型定置網(2)、潜水(7) (※計 69 経営体) ※上浦支店に所属する正組合員
-----------------------	--

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地区が面する佐伯湾は豊後水道の入り口に位置しており、典型的なリアス式海岸を擁し、豊富な魚種に恵まれた良湾である。</p> <p>これにより古くから沿岸漁業が盛んである当地区では、アジ・イワシを始め多種多様な魚種を対象とする小型定置網、タイ・イサキなどを主体とする一本釣り、サザエ・アワビ類などの磯物を主体とする潜水漁などの漁船漁業が営まれてきた。また養殖に関しては、マグロ・ブリを主体とした海面養殖を展開し発展してきた。</p> <p>しかしながら、環境の変化などによる漁獲量の減少、後継者不足などによる漁業者の高齢化が進み、当地区の漁業は衰退の一途を辿っている。これに加え、原油価格に左右される漁業用燃料や資材などの価格高騰により、当地区の漁業を取り巻く環境はより一層厳しい状況にある。</p>
--

## (2) その他の関連する現状等

<p>漁獲量の減少及び燃油や資材の価格高騰による影響は、非常に深刻な状況にあり、漁船漁業では出漁しても赤字になることが多々あり、養殖漁業でも増加する経費をまかなうのに大変苦慮している状況である。これにより、生産量をあげようとし、そのために経費がさらに増大するといった負のスパイラルが生じている。</p> <p>また、近年赤潮等の環境被害もみられるようになり、より一層経営状況を悪化させているのが現状である。</p>
---

## 3 活性化の取組方針

## (1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

漁業収入向上のため、アワビ類等の各魚種の種苗放流を行うことで水産資源の減少に歯止めをかけるとともに、水産多面的事業における藻場保全活動で、磯焼けが見られるようになった場所等への母藻設置や、海藻類を主食とする食害生物の除去を実施したことで、アワビ類やサザエ等の磯物資源に対する育成環境の改善を図った。

養殖魚のブランド化については、通常の養殖ブリを「かぼすブリ」へ徐々にシフトさせ、単価向上を図る計画を掲げていたが、養殖会社の方針や販売方法に合わず、取組を行うことはなかった。今後は、変化していく市場ニーズに合わせ、検討していきたいと考えている。

また、省燃油活動の推進により減速航行を徹底して行ったことで、燃油消費量削減などによる漁業コスト削減を図ることが出来たので一定の成果はあった。

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

上浦地区の水産資源は減少の一途を辿り漁獲量も減少している。加えて、漁業者数は後継者不足により減少し、当地区の漁業経営は非常に厳しいものとなっている。

このような厳しい状況の中で、漁業経営を少しでも維持・改善していくために、漁船漁業では各種種苗放流及び漁場拡大の取組みにより漁獲量の維持・増大に努める。また、全ての漁業者が使用する製氷施設整備に関して第2期浜プラン中に検討し、水産物流通機能の強化を図る。

養殖業では ICT を活用したスマート産業化を行い、漁業コストの削減につなげたい。また、新規養殖業の取組として、ヒジキ養殖に着手し収入向上を図りたい。

合わせて、近年養殖業に甚大な被害をもたらす赤潮の対策事業に取組んでいく。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

本プランの取組に関連した魚種のうち重要なアワビ類・サザエに関し、これを主な漁獲物とする当地区の潜水漁業の年間漁獲量を通じて、資源の動向を過去のデータと比較して把握する。その結果、変動が著しい場合は要因究明に努めるとともに、適当な場合は、本プランに掲げる取組み内容の見直しを行うこととする。

また、対象魚種や採捕方法に応じて効果ある資源管理を可能とするため、魚種漁法ごとに漁獲状況（量、サイズ、時期など）の変動を踏まえつつ、漁業法、大分県漁業調整規則、大分県海区調整委員会指示に基づく資源管理措置はもとより、さらに漁業者間による自主的な管理も実施して資源管理に取組むこととする。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和元年度）（2019年度）【所得向上目標0.2%】

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①種苗放流</p> <p>養殖漁業者を除く全漁業者は、マダイ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・アワビ類・ウニなどの高単価で取引される魚種の種苗放流を継続的に実施するとともに、採捕に関しては体長制限を実施することで資源の維持を図り、漁獲量の向上を目指す。</p> <p>②漁場の拡大</p>
---------------------	---

	<p>潜水漁業者は沿岸漁場基盤整備事業を活用し、漁場の拡大及び種苗放流時の隠れ場（生息場）の造成を実施することで、漁場環境を改善し、漁獲量の向上を目指す。また、水産多面的機能発揮対策事業を使用した藻場保全活動により、海藻を食べてしまう食害生物の除去や磯焼けが進行する場所への母藻設置の取組を行うことで藻場面積の増大を図る。</p> <p>③天然の海藻を用いた加工品開発</p> <p>潜水漁業者は地元海藻加工業者及び地区内の高齢者協議会と連携し、天然のヒジキやテングサ等を用いた加工品開発を行い、地元直売所にて観光客等へ販売を行う。</p> <p>本年度の取組としては、連携する業者・協議会との協議を行い、開発に向けた検討を行う。</p> <p>④新規養殖業への着業</p> <p>新規養殖業への着業として、ヒジキ養殖の取組を行う。当地区では現在も天然のヒジキ等の海藻類の採捕は行われているが、採捕量が減少傾向にあり、安定供給が可能となる養殖に目を付けた。</p> <p>本年度の取組としては、漁業者と漁協で事業化に向けた協議を行う。</p> <p>⑤販路拡大の取組</p> <p>潜水漁業者は漁協を通して、サザエの宅配サービスを行っているが注文数が伸び悩んでいる。そこで、注文数を増やす取り組みとして潜水漁業者を中心としてブログ等の SNS や Youtube 等の情報発信媒体を通じて、PR を行う。合わせて県内外での催しに出向き、その際宅配サービス等の宣伝も行う。</p> <p>⑥赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発【サブ目標】</p> <p>近年、赤潮による養殖魚の斃死が毎年のように続いており、赤潮の被害を受けにくい深層型養殖生け簀を整備することで、斃死数を減少させ、収入向上を図る。</p> <p>本年度の取組としては、深層型生け簀の整備を行い、実証実験をスタートさせる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①ICT を活用した省燃油活動の推進</p> <p>養殖漁業者は、毎朝生け簀に向かい、魚の状態や漁場環境を確認し、その上で給餌をどのように行えばいいのかを判断している。この確認作業を自動昇降観測機や水中カメラを利用して行うことにより、生け簀に向かう燃料代の削減を図る。</p> <p>②漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <p>全漁業者は、燃油や配合飼料の価格上昇に備えて、予め漁業者と国が資金の積み立てを行うことで、経営に及ぼす影響を緩和する。</p>

	<p>③共同利用施設の整備の検討</p> <p>全漁業者が利用する製氷所について整備について検討する。現在主に利用しているのは、隣接する市の日見地区にある製氷施設であり、上浦地区から片道約7km離れているため、地区内への新設を計画する。地元製氷施設を建設することにより、氷の手配に要するコスト削減が可能となるため、建設に向けた検討・施設の設計を漁協と漁業者が連携し進める。</p>
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、沿岸漁場基盤整備事業

2年目（令和2年度）（2020年度）【所得向上目標－5.3%】（ヒジキ養殖の設備投資により一時的にマイナスとなる見込み。）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①種苗放流</p> <p>養殖漁業者を除く全漁業者は、マダイ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・アワビ類・ウニなどの高単価で取引される魚種の種苗放流を継続的に実施するとともに、採捕に関しては体長制限を実施することで資源の維持を図り、漁獲量の向上を目指す。</p> <p>②漁場の拡大</p> <p>潜水漁業者は沿岸漁場基盤整備事業を活用し、漁場の拡大及び種苗放流時の隠れ場（生息場）の造成を実施することで、漁場環境を改善し、漁獲量の向上を目指す。また、水産多面的機能発揮対策事業を使用した藻場保全活動により、海藻を食べてしまう食害生物の除去や磯焼けが進行する場所への母藻設置の取組を行うことで藻場面積の増大を図る。</p> <p>③天然の海藻を用いた加工品開発</p> <p>潜水漁業者は地元の海藻加工業者及び地区内の高齢者協議会と連携し、天然のヒジキやテングサ等を用いた加工品開発を行い、地元直売所にて観光客等へ販売を行う。</p> <p>本年度の取組としては、前年度から引き続きで、連携する業者・協議会との協議を行い、開発に向けた検討を行う。</p> <p>④新規養殖業への着業</p> <p>新規養殖業への着業として、ヒジキ養殖の取組を行う。当地区では現在も天然のヒジキ等の海藻類の採捕は行われているが、採捕量が減少傾向にあり、安定供給が可能となる養殖に目を付けた。</p> <p>本年度の取組としては、区画漁業権を取得し、アンカー・ブイ・種糸の設置を行う。</p>
---------------------	--

	<p>⑤販路拡大の取組</p> <p>潜水漁業者は漁協を通して、サザエの宅配サービスを行っているが注文数が伸び悩んでいる。そこで、注文数を増やす取り組みとして潜水漁業者を中心としてブログ等の SNS や Youtube 等の情報発信媒体を通じて、PR を行う。合わせて県内外での催しに出向き、その際宅配サービス等の宣伝も行う。</p> <p>⑥赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発【サブ目標】</p> <p>近年、赤潮による養殖魚の斃死が毎年のように続いており、赤潮の被害を受けにくい深層型養殖生け簀を整備することで、斃死数を減少させ、収入向上を図る。</p> <p>本年度の取組としては、前年度に整備した深層型生け簀を使用した実証実験を本格的にスタートさせる。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①ICT を活用した省燃油活動の推進</p> <p>養殖漁業者は、毎朝生け簀に向かい、魚の状態や漁場環境を確認し、その上で給餌をどのように行えばいいのかを判断している。この確認作業を自動昇降観測機や水中カメラを利用して行うことにより、生け簀に向かう燃料代の削減を図る。</p> <p>②漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <p>全漁業者は、燃油や配合飼料の価格上昇に備えて、予め漁業者と国が資金の積み立てを行うことで、経営に及ぼす影響を緩和する。</p> <p>③共同利用施設の整備の検討</p> <p>全漁業者が利用する製氷所について整備について検討する。現在主に利用しているのは、隣接する市の日見地区にある製氷施設であり、上浦地区から片道約 7 k m 離れているため、地区内への新設を計画する。地元製氷施設を建設することにより、氷の手配に要するコスト削減が可能となるため、建設に向けた検討・施設の設計を漁協と漁業者が連携し進める。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、沿岸漁場基盤整備事業</p>

3年目（令和3年度）（2021年度）【所得向上目標14.7%】

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>①種苗放流</p> <p>養殖漁業者を除く全漁業者は、マダイ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・アワビ類・ウニなどの高単価で取引される魚種の種苗放流を継続的に実施するとともに、採捕に関しては体長制限を実施することで資源の維持を図り、漁獲量の向上を目指す。</p> <p>②漁場の拡大</p>
---------------------	---

	<p>水産多面的機能発揮対策事業を使用した藻場保全活動により、海藻を食べてしまう食害生物の除去や磯焼けが進行する場所への母藻設置の取組を行うことで藻場面積の増大を図る。</p> <p>③天然の海藻を用いた加工品開発</p> <p>潜水漁業者は地元海藻加工業者及び地区内の高齢者協議会と連携し、天然のヒジキやテングサ等を用いた加工品開発を行い、地元直売所にて観光客等へ販売を行う。</p> <p>本年度の取組としては、連携する業者・協議会との協議結果をもとに、試作品の開発に着手する。</p> <p>④新規養殖業への着業</p> <p>新規養殖業への着業として、ヒジキ養殖の取組を行う。当地区では現在も天然のヒジキ等の海藻類の採捕は行われているが、採捕量が減少傾向にあり、安定供給が可能となる養殖に目を付けた。</p> <p>本年度の取組としては、前年度に設置したヒジキの刈り取りを春先に行うとともに、種糸の再設置を冬場に行う。</p> <p>⑤販路拡大の取組</p> <p>潜水漁業者は漁協を通して、サザエの宅配サービスを行っているが注文数が伸び悩んでいる。そこで、注文数を増やす取り組みとして潜水漁業者を中心としてブログ等の SNS や Youtube 等の情報発信媒体を通じて、PR を行う。合わせて県内外での催しに出向き、その際宅配サービス等の宣伝も行う。</p> <p>⑥赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発【サブ目標】</p> <p>近年、赤潮による養殖魚の斃死が毎年のように続いており、赤潮の被害を受けにくい深層型養殖生け簀を整備することで、斃死数を減少させ、収入向上を図る。</p> <p>本年度の取組としては、前年度に引き続き実証実験を行う。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①ICT を活用した省燃油活動の推進</p> <p>養殖漁業者は、毎朝生け簀に向かい、魚の状態や漁場環境を確認し、その上で給餌をどのように行えばいいのかを判断している。この確認作業を自動昇降観測機や水中カメラを利用して行うことにより、生け簀に向かう燃料代の削減を図る。</p> <p>②漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <p>全漁業者は、燃油や配合飼料の価格上昇に備えて、予め漁業者と国が資金の積み立てを行うことで、経営に及ぼす影響を緩和する。</p>

	<p>③共同利用施設の整備の検討</p> <p>全漁業者が利用する製氷所について整備について検討する。現在主に利用しているのは、隣接する市の日見地区にある製氷施設であり、上浦地区から片道約7km離れているため、地区内への新設を計画する。地元製氷施設を建設することにより、氷の手配に要するコスト削減が可能となるため、建設に向けた検討・施設の設計を漁協と漁業者が連携し進める。</p>
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、沿岸漁場基盤整備事業

4年目（令和4年度）（2022年度）【所得向上目標15.8%】

漁業収入向上のための取組	<p>①種苗放流</p> <p>養殖漁業者を除く全漁業者は、マダイ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・アワビ類・ウニなどの高単価で取引される魚種の種苗放流を継続的に実施するとともに、採捕に関しては体長制限を実施することで資源の維持を図り、漁獲量の向上を目指す。</p> <p>②漁場の拡大</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業を使用した藻場保全活動により、海藻を食べてしまう食害生物の除去や磯焼けが進行する場所への母藻設置の取組を行うことで藻場面積の増大を図る。</p> <p>③天然の海藻を用いた加工品開発</p> <p>潜水漁業者は地元の海藻加工業者及び地区内の高齢者協議会と連携し、天然のヒジキやテングサ等を用いた加工品開発を行い、地元直売所にて観光客等へ販売を行う。</p> <p>本年度の取組としては、開発した加工品の販売をスタートさせる。</p> <p>④新規養殖業への着業</p> <p>新規養殖業への着業として、ヒジキ養殖の取組を行う。当地区では現在も天然のヒジキ等の海藻類の採捕は行われているが、採捕量が減少傾向にあり、安定供給が可能となる養殖に目を付けた。</p> <p>本年度の取組としては、前年度に設置したヒジキの刈り取りを春先に行うとともに、種糸の再設置を冬場に行う。</p> <p>⑤販路拡大の取組</p> <p>潜水漁業者は漁協を通して、サザエの宅配サービスを行っているが注文数が伸び悩んでいる。そこで、注文数を増やす取り組みとして潜水漁業者を中心としてブログ等のSNSやYoutube等の情報発信媒体を通じて、PRを行う。合わせて県内外での催し</p>
--------------	---

	<p>に出向き、その際宅配サービス等の宣伝も行う。</p> <p>⑥赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発【サブ目標】</p> <p>近年、赤潮による養殖魚の斃死が毎年のように続いており、赤潮の被害を受けにくい深層型養殖生け簀を整備することで、斃死数を減少させ、収入向上を図る。</p> <p>本年度の取組としては、実証実験の成果を踏まえ、深層型生け簀を1つ増やす。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>①ICTを活用した省燃油活動の推進</p> <p>養殖漁業者は、毎朝生け簀に向かい、魚の状態や漁場環境を確認し、その上で給餌をどのように行えばいいのかを判断している。この確認作業を自動昇降観測機や水中カメラを利用して行うことにより、生け簀に向かう燃料代の削減を図る。</p> <p>②漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <p>全漁業者は、燃油や配合飼料の価格上昇に備えて、予め漁業者と国が資金の積み立てを行うことで、経営に及ぼす影響を緩和する。</p> <p>③共同利用施設の整備の検討</p> <p>全漁業者が利用する製氷所について整備について検討する。現在主に利用しているのは、隣接する市の日見地区にある製氷施設であり、上浦地区から片道約7km離れているため、地区内への新設を計画する。地元製氷施設を建設することにより、氷の手配に要するコスト削減が可能となるため、建設に向けた検討・施設の設計を漁協と漁業者が連携し進める。</p>
活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、沿岸漁場基盤整備事業

5年目（令和5年度）（2023年度）【所得向上目標15.9%】

漁業収入向上のための取組	<p>①種苗放流</p> <p>養殖漁業者を除く全漁業者は、マダイ・イサキ・カサゴ・クルマエビ・アワビ類・ウニなどの高単価で取引される魚種の種苗放流を継続的に実施するとともに、採捕に関しては体長制限を実施することで資源の維持を図り、漁獲量の向上を目指す。</p> <p>②漁場の拡大</p> <p>水産多面的機能発揮対策事業を使用した藻場保全活動により、海藻を食べてしまう食害生物の除去や磯焼けが進行する場所への母藻設置の取組を行うことで藻場面積の増大を図る。</p> <p>③天然の海藻を用いた加工品開発</p>
--------------	---



	<p>潜水漁業者は地元の海藻加工業者及び地区内の高齢者協議会と連携し、天然のヒジキやテングサ等を用いた加工品開発を行い、地元直売所にて観光客等へ販売を行う。</p> <p>本年度の取組としては、開発した加工品の販売を行う。</p> <p>④新規養殖業への着業</p> <p>新規養殖業への着業として、ヒジキ養殖の取組を行う。当地区では現在も天然のヒジキ等の海藻類の採捕は行われているが、採捕量が減少傾向にあり、安定供給が可能となる養殖に目を付けた。</p> <p>本年度の取組としては、前年度に設置したヒジキの刈り取りを春先に行うとともに、種糸の再設置を冬場に行う。</p> <p>⑤販路拡大の取組</p> <p>潜水漁業者は漁協を通して、サザエの宅配サービスを行っているが注文数が伸び悩んでいる。そこで、注文数を増やす取り組みとして潜水漁業者を中心としてブログ等の SNS や Youtube 等の情報発信媒体を通じて、PR を行う。合わせて県内外での催しに出向き、その際宅配サービス等の宣伝も行う。</p> <p>⑥赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発【サブ目標】</p> <p>近年、赤潮による養殖魚の斃死が毎年のように続いており、赤潮の被害を受けにくい深層型養殖生け簀を整備することで、斃死数を減少させ、収入向上を図る。</p> <p>本年度の取組としては、深層型生け簀をさらにもう1つ整備する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>①ICT を活用した省燃油活動の推進</p> <p>養殖漁業者は、毎朝生け簀に向かい、魚の状態や漁場環境を確認し、その上で給餌をどのように行えばいいのかを判断している。この確認作業を自動昇降観測機や水中カメラを利用して行うことにより、生け簀に向かう燃料代の削減を図る。</p> <p>②漁業経営セーフティネット構築事業の活用</p> <p>全漁業者は、燃油や配合飼料の価格上昇に備えて、予め漁業者と国が資金の積み立てを行うことで、経営に及ぼす影響を緩和する。</p> <p>③共同利用施設の整備の検討</p> <p>全漁業者が利用する製氷所について整備について検討する。現在主に利用しているのは、隣接する市の日見地区にある製氷施設であり、上浦地区から片道約7km離れているため、地区内への新設を計画する。地元製氷施設を建設することにより、氷の手配に要するコスト削減が可能となるため、建設に向けた検討・施設の設計を漁協と漁業者が連携し進める。</p>

活用する支援措置等	省燃油活動推進事業、漁業経営セーフティネット構築事業、水産多面的機能発揮対策事業、水産業強化支援事業、沿岸漁場基盤整備事業
-----------	---

(5) 関係機関との連携

<p>取組みの効果が十分に発揮されるよう、行政（大分県、佐伯市）と大分県漁業協同組合及び同組合の佐伯市内各支店との連携を強固にするとともに、県内外の流通関係者についても新たな連携を模索する。</p>
---

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準所得	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

ヒジキ養殖生産量	基準年	
	目標年	
赤潮被害軽減のための新型（深層型）養殖生け簀の開発	基準年	
	目標年	

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

--

--

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
① 省燃油活動推進事業	漁業者グループが省燃油活動に積極的に取組むことで、漁業支出の低減を図り、漁業所得を確保する。
② 漁業経営セーフティネット構築事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。
③ 水産多面的機能発揮対策事業	漁業者自らが藻場保全活動等の漁場管理に積極的に取組み、漁業所得の向上を図る。
④ 水産業強化支援事業	共同利用施設（加工場施設）の整備を実施し漁業所得の向上を目指す。
⑤ 沿岸漁場基盤整備事業	増殖場造成を行い、漁場環境を改善し、漁獲量の向上を目指す。